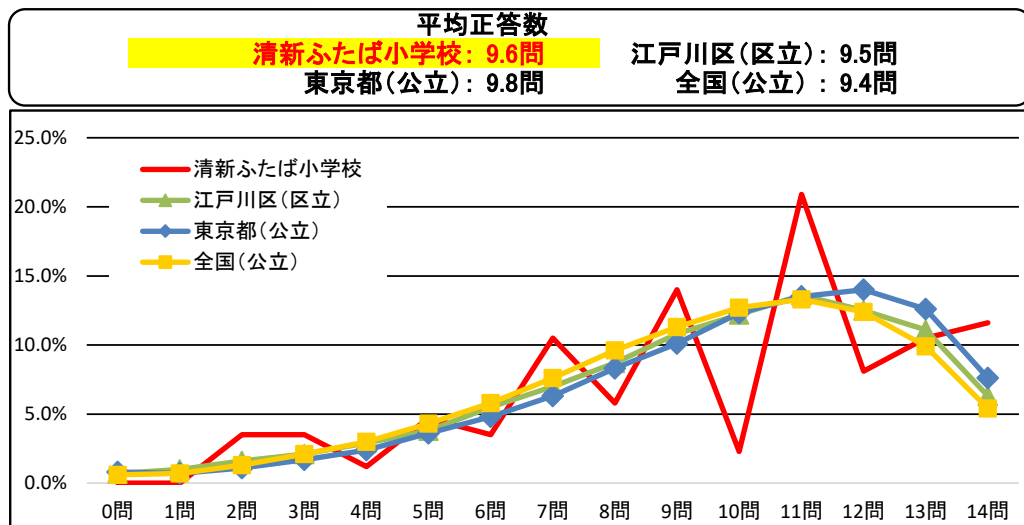


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 清新ふたば小学校

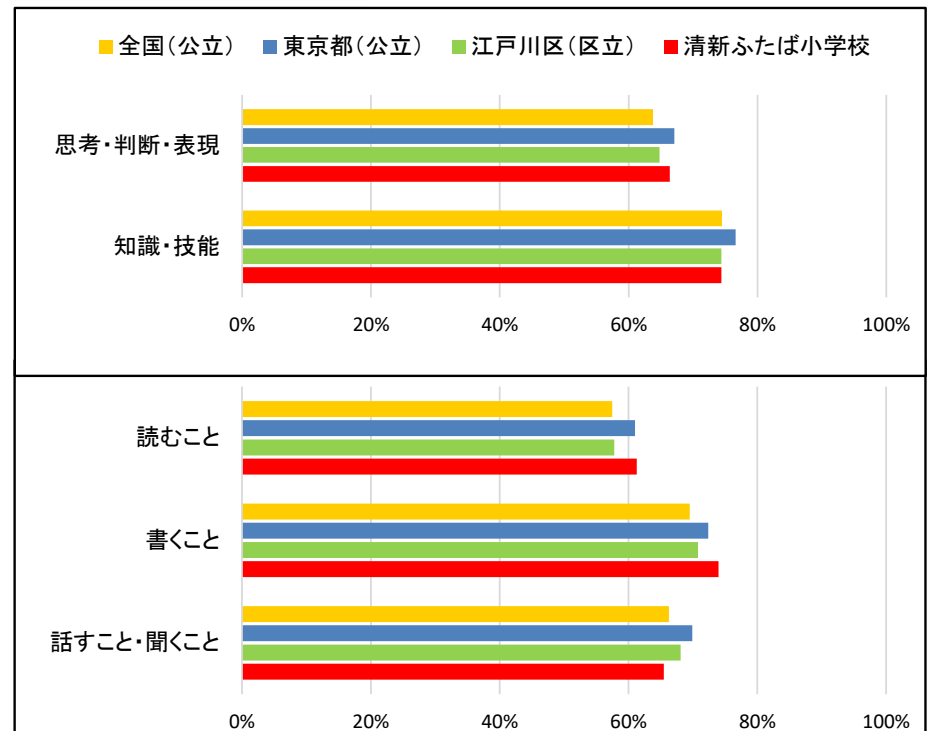
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

清新ふたば小学校	69%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-1.0

「領域別」の結果

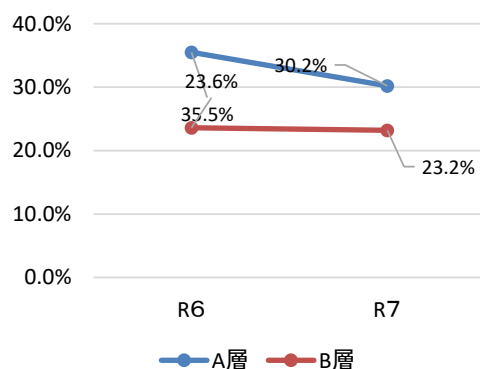


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

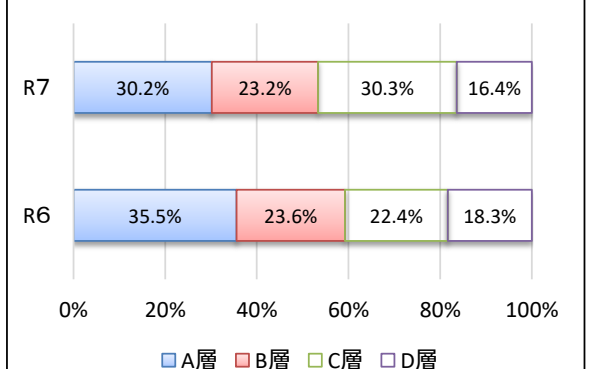
国 語	上位 ← → 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
清新ふたば小学校	30.2%	23.2%	30.3%	16.4%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

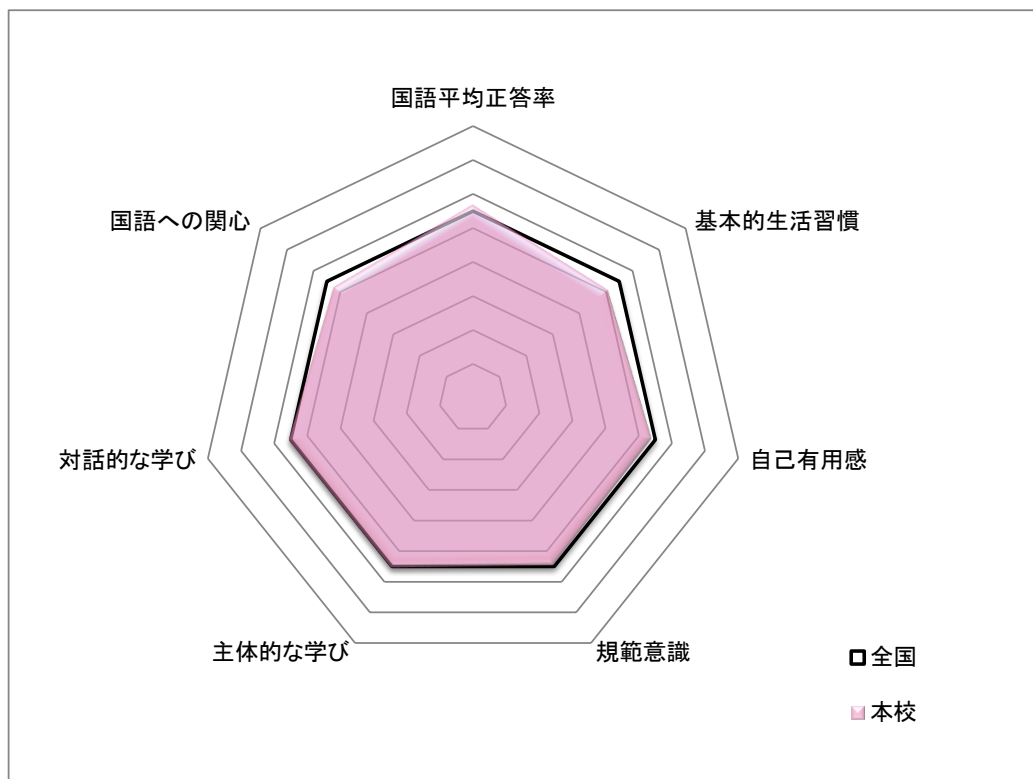
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

国語科の正答率や対話的な学びに関しては、全国の前年値を上回っていた。一方で、国語科への関心、基本的な生活習慣の値は、全国の前年値を下回った。
 国語科の授業研究を行う中で、児童が話し合い活動に充実感を得ていることに関しては成果が見られた。但し、年度初めから目指している「主体的に学ぶ児童の育成」に関しては、今後改善の余地が残された。併せて基本的な生活習慣に関しては、習い事等による崩れ傾向も見られ、ご家庭との連携の必要性を感じる。

《家庭・地域への働きかけ》

毎日の家庭学習における漢字学習の見守り、声掛けや、単元ごとのワークテストの復習を推奨していく。加えて、基本的な生活習慣の乱れからくる心身の不調がチャートの特徴、児童の様子から見受けられる。そのため、携帯電話やタブレット端末の使用の仕方、習い事と学校の両立、就寝時間の改善などの協力を得られるよう、引き続き声を掛けていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

昨年度よりもAB層の割合が減少し、53.4%にとどまった。今回の結果や、今年度の児童の様子を見ても活字離れのせいか、読み取り能力や漢字の定着に課題が見られた。「AB層の割合の前年度比」を見ても分かる通り、C層に分布する児童30.3%のほとんどは、この2点において苦戦していた。今後は、以下の取組をもって主にC層に分布する児童がAB層に分布できるよう指導をしていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

本校では、今年度校内研究として国語科における「主体的に学び、豊かな表現をする児童の育成～学びのユニバーサルデザインの視点による授業改善～」を目指している。学期に1回の事前研究会、研究授業、協議会を行っている。児童の学び方のアップデートを図り、学びに向かう主体性の向上を目指している。また、教員同士が学び合い、育ち合う風土も大切であると考え、教員の指導力向上を目指した校内研修会や校内自主研究会も定期的に行っている。今後も、引き続き国語科を中心とした教員同士の自己研鑽を進めていく。

・基礎学力の保障

本校では、江戸川区の特有の教科「読書科」における朝読書と授業を行っている。読書に親しみ、読書をきっかけに学びを紡ぐ経験を1年生から行うことで、読み取り能力の向上や読書への苦手意識の軽減を目指している。さらに、「よむYOMUワークシート」を活用し、新聞記事等から必要な情報を抜き取る問題に取り組んでいる。筆者の意図を探りながら問題に取り組み、毎度振り返りを各学級で行っている。加えて、放課後補習や復習における既習漢字の定着を目指している。読解能力の基盤にあるのは漢字だと考え、学校全体で漢字小テスト、再テストの実施等に取り組んでいる。

・学習習慣の確立

本校では学習習慣の確立のため、全学年での家庭学習の実施、提出を目指している。その中でも、中学年以上は自主学習を実施し、主体的に自己の得意や苦手と向き合い、改善していく時間を設けている。

加えて、「学習の約束」を毎学期始めに児童と共に確認している。よりよい学習は環境から創っていけると考え、学習の準備、話の聞き方、ノートの書き方など基本的な学習に向かう約束の徹底を目指している。

・AB層の育成

AB層に関しては、基礎学力が定着している。そのため、学びのユニバーサルデザインの視点による授業改善を図り、児童に学び手としての自覚が芽生えるような指導を試みている。今回の調査結果を見ると、AB層も含めて国語科への関心は全国平均値を下回った。今後は、児童が国語科固有の面白さを味わい、主体的に学んでいくことが求められる。身に付けた読解能力、漢字をどのように活用していくかを教員が示し、指導し、学びを徐々に委ねていくことでAB層の育成を目指す。